九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[085_03-04] 法政研究表紙奥付

https://hdl.handle.net/2324/2230980

出版情報：法政研究. 85 (3/4), 2019-03-08. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

松生　光正　教授　著作目録

著書、編著（教科書等の一部執筆）

『刑法教科書総論（上）』（伊藤寧・川口浩一・葛原力三と共著）　嵯峨野書院　一九九二年
『刑法と現代社会（改訂版）』（竹内正・伊藤寧編）　嵯峨野書院　一九九三年
『新・判例コンメンタール　刑事訴訟法3』（高田卓爾・鈴木茂嗣編）　三省堂　一九九五年

論文

「過失による共犯（一）」（法学論叢一一七巻一号）　一九八五年
「過失による共犯（二完）」（法学論叢一一七巻五号）　一九八五年
「錯誤を利用した間接正犯」（犯罪と刑罰二号）　一九八六年
「刑事訴訟における条件付き訴訟行為について」（姫路法学一号）　一九八八年
「公訴事実の同一性に関する一考察」（姫路法学二号）　一九八九年
「コミュニケーション過程としての刑事裁判」姫路獨協大学公開講座運営委員会『現代社会とコミュニケーション』　一九八九年
「共同正犯――行為支配説の検討――」中山研一ほか編『刑法理論の探究　中義勝先生古稀祝賀』　一九九二年
「妊娠中絶の違法性」（犯罪と刑罰九号）　一九九三年
「刑法第六五条の「身分」概念について（1）」（姫路法学一八号）　一九九六年

「不作為による関与と犯罪阻止義務」（刑法雑誌三六巻一号）一九九六年
「輸血拒否に関する刑事責任」『生命と刑法　中山研一先生古稀祝賀論文集第一巻』一九九七年
「連続的な犯罪行為の訴訟法的問題」（刑法雑誌三七巻一号）一九九七年
「刑法第六五条の「身分」概念について（2）完」（姫路法学二三・二四合併号）一九九八年
「刑法第六五条の「身分」の概念について」（刑法雑誌三八巻一号）一九九八年
「過失犯と客観的帰属論」（現代刑事法四号）一九九九年
「中立的行為による幇助（一）」（姫路法学二七・二八合併号）一九九九年
「過失と共犯」（刑法雑誌四〇巻二号）二〇〇一年
「中立的行為による幇助（二）完」（姫路法学三一・三二合併号）二〇〇一年
「救助的因果経過の中断について（一）」（姫路法学三三号）二〇〇一年
「救助的因果経過の中断について（二）」（姫路法学三四・三五合併号）二〇〇二年
「法益としての「名誉」について」（姫路法学三六号）二〇〇二年
「結果的加重犯と共犯」（現代刑事法四八号）二〇〇三年
「Hirntod und Personenbegriff」
hrsg. Hirokazu Kawaguchi und Kurt Seelmann『Rechtliche und ethische Fragen der Transplantationstechnologie in einem interkulturellen Vergleich』(Archiv für Rechts- und Sozialphilosophie, Beiheft 86) 二〇〇三年
「刑事弁護人の訴訟協力義務」（姫路法学三八号）二〇〇三年
「救助的因果経過の中断について（三）完」（姫路法学三九・四〇合併号）二〇〇四年

「テロと刑法――ドイツ刑法第一二九条aをめぐる議論を素材として」　姫路獨協大学「戦争と平和」研究会編『戦争と平和を考える』　二〇〇六年
「正犯者における客体の錯誤の共犯者への帰属」　斉藤豊治ほか編『神山敏雄先生古稀祝賀論文集第一巻』　二〇〇六年
「引き受け過失について」　三井誠ほか編『鈴木茂嗣先生古稀祝賀論文集上巻』　二〇〇七年
「Die Rolle der Ehre im Strafrecht in Japan」　Silvia Tellenbach (Hrsg.)『Die Rolle der Ehre im Strafrecht』　二〇〇七年
「共同正犯の構造について」　（法政研究七六巻四号）　二〇一〇年
「客観的帰属論と過失共犯」　（刑法雑誌五〇巻一号）　二〇一〇年
「例外状態と正当化」　（ノモス（関西大学法学研究所）三〇号）　二〇一二年
「例外状態と国家的行為の正当化」　（刑法雑誌五三巻一号）　二〇一三年
「刑法上の占有概念の法的性質について」　（法政研究八〇巻二・三合併号）　二〇一三年
「緊急状態による正当化」　『例外状態と法に関する諸問題』（関西大学法学研究所研究叢書第50冊）　二〇一四年
「押しつけられた緊急救助」　『続・例外状態と法に関する諸問題』（関西大学法学研究所研究叢書第54冊）　二〇一六年
「身分なき故意ある道具」　井田良ほか編『浅田和茂先生古稀祝賀論文集〔上巻〕』　二〇一六年
「国家と緊急救助」　『法の理論35』　二〇一七年
「inus条件論の刑法的意義」　井田良ほか編『山中敬一先生古稀祝賀論文集〔上巻〕』　二〇一七年

「連鎖的共犯について」　伊東研祐ほか編『市民的自由のための市民的熟議と刑事法：増田豊先生古稀祝賀論文集』　二〇一八年

判例研究・評釈等

「間接正犯と教唆犯の限界付け――Katzenkönig事件（BGH, NJW 1989, 912）――」　（姫路法学四号）　一九八九年

「誤想防衛と過剰防衛（1）最高裁昭和二四年四月五日第三小法廷判決」　『刑法判例百選Ⅰ総論（第四版）』　一九九七年

「不作為による幇助――犯罪防止義務を否定した事例――東京高裁平成一一年一月二九日判決」　（判例セレクト'99）　二〇〇〇年

「不作為による幇助――作為と同視し得ないとされた事例――釧路地裁平成一一年二月一二日判決」　（判例セレクト'99）　二〇〇〇年

「不作為による幇助の成立を認めた事例――札幌高裁平成一二年三月一六日判決」　（判例セレクト'00）　二〇〇一年

「旧政治資金規正法二五条一項の収支報告虚偽記入罪と身分犯」『平成一二年度重要判例解説』　二〇〇一年

「事実証明に関する文書の意義」　『刑法判例百選Ⅱ各論（第五版）』　二〇〇三年

「社交儀礼と賄賂罪」　『刑法判例百選Ⅱ各論（第六版）』　二〇〇八年

「間接正犯」　『刑法判例百選Ⅰ総論（第七版）』　二〇一四年

「身代わり犯人と犯人隠避罪の成否」　『刑法判例百選Ⅱ各論（第七版）』　二〇一四年

翻訳・文献紹介その他

「ヒンリッヒ・リュービング「親衛隊――警察裁判所を例とした国家社会主義の裁判」」（文献紹介）（警察研究五五巻九号）　一九八四年

「ロクシン「BGH, Urt. v. 5. 7. 1983―StR 168/83の評釈」」（文献紹介）（警察研究五六巻三号）　一九八五年

「ギュンター・ヤコブス「刑法総論（1）第一部第一章第一節Ⅰ～Ⅳ」」（文献紹介）（法学ジャーナル四二号）　一九八五年

「オタ・ヴァインベルガー「形式的―目的主義的行為論と刑法」」（文献紹介）（龍谷法学一八巻四号）　一九八六年

「ギュンター・ヤコブス「刑法総論（4）第二部第一編第一章第七節第一項Ⅰ～Ⅱ」」（文献紹介）（法学ジャーナル四五号）　一九八六年

「ギュンター・ヤコブス「刑法総論（6）第二部第一編第一章第七節第一項Ⅷ」」（文献紹介）（法学ジャーナル四七号）　一九八七年

「W・ハッセマー「テロ犯罪の場合の王冠証人規定」」（文献紹介）（警察研究五九巻一二号）　一九八八年

「ベルント・シューネマン「刑法上の体系思考に関する序論」」（翻訳）
　ベルント・シューネマン著編、中山研一・浅田和茂監訳『現代刑法体系の基本問題』　一九九〇年

「ギュンター・ヤコブス「刑法総論（13）第二部第一編第三章第一九節」」（文献紹介）（法学ジャーナル五五号）　一九九〇年

「M・ケーラー「身上配慮と堕胎禁止」」（文献紹介）（奈良法学会雑誌第二巻四号）　一九九〇年

『刑事訴訟法公判手続対案』（ドイツ対案グループ著、浅田和茂監訳、川口浩一らと共訳）　一九九一年

「ギュンター・ヤコブス「危険競合――刑法における侵害経過と経過仮定」」（翻訳）　（姫路法学八号）　一九九一年
「O・ベーレンツ「自由法運動から具体的秩序思想及び形成思想へ」」（文献紹介）　（警察研究六二巻七号）　一九九一年
「ジュリオ・デシモーネ「イタリア刑法における団体の刑事責任の諸問題」」（翻訳）　（姫路法学二〇号）　一九九六年
「ジュリオ・デシモーネ
「イタリア刑法体系における解釈論上の概念及び憲法上の原理としての責任」」（翻訳）　（姫路法学二〇号）　一九九六年
「書評　林陽一著『刑法における因果関係理論』」（書評）　（現代刑事法三一号）　二〇〇一年
「パオロ・ベッキ
「臓器移植に関するイタリアの新たな法律（一九九九年の第九号）とその適用」」（翻訳）　（姫路法学三九・四〇合併号）　二〇〇四年
「わいせつ罪における公然性」　三原憲三・津田重憲・関哲夫編『刑法ゼミナール〔各論〕』　二〇〇六年
「単純賭博罪」　三原憲三・津田重憲・関哲夫編『刑法ゼミナール〔各論〕』　二〇〇六年
「ハインツ・シェヒ「臨死介助の法的諸問題」」（翻訳）　（法政研究七二巻四号）　二〇〇六年
「クルト・ゼールマン『法哲学』（第四版・二〇〇七年）（4）」（翻訳）　（関西大学法学論集六〇巻二号）　二〇一〇年
「クルト・ゼールマン『法哲学』（第四版・二〇〇七年）（5）」（翻訳）

（関西大学法学論集六〇巻四号）　二〇一〇年

「中立的行為と幇助」　三原憲三・津田重憲・関哲夫編『刑法ゼミナール〔総論〕第二版』　二〇一二年

「ミヒャエル・パヴリック『市民の不法』（7）第二章B」（翻訳）
（関西大学法学論集六五巻一号）　二〇一五年

「ミヒャエル・パヴリック『市民の不法』（11）第三章A」（翻訳）
（関西大学法学論集六五巻六号）　二〇一六年

「飯島コメントへのリプライ」　『法の理論36』　二〇一八年